

# 第31回

## うつのみやこども賞だより

平成26年度 4回

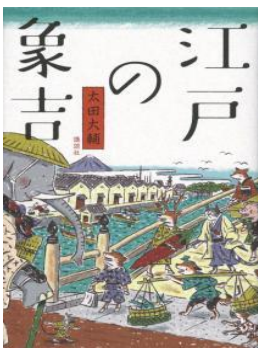
市内5・6年生の選定委員さんたちが、月に4冊の本を読んで、年間で一番人気の高かった本に「うつのみやこども賞」を贈っています。

《今月選ばれた本》

### 『江戸の象吉』

太田大輔／著（講談社）

～読んだ本の感想より～



- 江戸の場面でしかも動物！予想外のお話で1話1話引き込まれました。
- おもしろいところは、昔の人のような名前の動物が出てくるところとそれぞれの動物の口調だと思いました。
- 江戸時代の文化がくわしく分かって勉強になったし、内容もおもしろかった。
- 動物たちとくりひろげられる日常の会話がとてもおもしろかった。
- 歴史人物のパロディーみたいなのがあって興味を持つ。

●象吉は手が大きいのに、時計などをなおすこまかいしごとをさっとやってしまうなんて意外だな！器用だなと思いました。

『虫ロボのぼうけん』 吉野万理子／著  
(理論社)

- 忍者の子孫で、しかも虫のロボットにのれるなんていいなあと思いました。私だったらチョウの虫ロボがいいなあと思いました。
- 人間がカブト虫や虫を助ける。そんなところがおもしろいです。
- 私も虫ロボにのって虫と話してみたいです。
- おじいちゃんはなぜ15年間の大作に防犯対策をしなかったのか疑問に思いました。

『伝説のエンドーくん』 まはら三桃／著  
(小学館)

- エンドーくんの意外な正体にとってもおどろいた。エンドーくんが身近にいる中で、たくさんの人々が変わっていったり、自分に自信を持ったりしてよかった。
- エンドーくんは制勝を清爽にかえることをよく思いついたなと思いました。
- 一章ごとに主人公がかわるのがすぐにあきないのでよかったです。
- 始まりから終わりまでドキドキ、ワクワクだった。
- 私も先生たちみたいに落書きのメッセージを見て、一歩ふみ出せれたらいいなと思いました

『明日は海からやってくる』 杉本りえ／著  
(ポプラ社)

- 灯子と竜太のまわりで、様々な出来事が起こる中、二人が成長していく姿がとても印象に残った。
- 航平が言った「どんな仕事だって100パーセント楽しいものはない」ということばがすごいと思った。
- かなしい時もあったけど、負けずにがんばる灯子と竜太にかんどうしました。
- 航平のような兄がいたらおもしろそうだなと思いました。